

24日(月)からの5日間、北信中の2年生7名が、市中学生ドリームアップ体験活動として学校の仕事体験にやってきます。男子3名・女子4名、ひとりずつ各クラスの担当となり、学校の仕事を体験します。充実した5日間にしていきたいですね。

家庭と学校ががっちり手を繋ぐ2年目に

みんなの広場 2

笑顔があふれ、明日もまた来たくなる学校

2024.6.20 発行 No.38 文責 目黒 満

子育てのヒント Part 3 ~親からのアドバイス・サポートの仕方~

○ 社会性の発達を

どうサポートしていくか



親に求められるのは、なにより「**応答性**」です。応答性とは、子どもの求めていることを汲み取って受け止めるということです。子どもの様子に関心を向け、子どもが言おうとしていることをよく

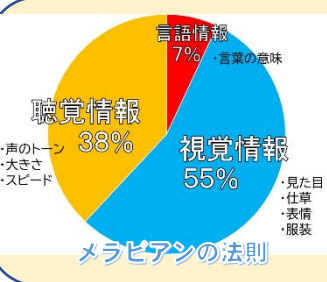
聞くことです。

逆効果なのは、子どもを受け止めるよりも先に、子どもを「親の思い通りに動かしたい」という意図が強い場合です。それは子どもに伝わります。子どもは「親の喜ぶようなことを言わないといけない」と悟ってしまい、親には話したがらなくなり、親子間での対話が成り立たなくなってしまいます。

<例> 「学校どうだった?」とか

「宿題は?」といった声を掛けるとき

親が、本当に子どもの思いを汲み取ろうとしているのであれば、**表情や声**は**応答的なもの**になっているはず。でも、勉強をちゃんとしているのか問いただすような気持ちが先にあると、怒ったり問い詰めたりするような言い方になってしまいます。愛情をもって言ったつもりでも、子どもにとっては**応答的でなく、攻撃的**ということになってしまいます。



人間同士のコミュニケーションにおいては、言葉で伝えようとする内容や情報よりも、**表情・態度・しぐさや声の大きさ・声色**等に現れる話し手の感情・思いの方がより多く伝わる分かっています。

○ 成長する時期だからこそ 葛藤が増える



6年間で、子どもは過去の振り返りや未来の想像、対人関係の広がり、自分自身の客観視も可能になるため、**悩みや葛藤、劣等感が増えます**。その結果、いつもニコニコしてられない場面も増えてきます。**大人との違いは、葛藤が増えるのに、その解決法がわからない**ということです。経験が浅いので、**友だちと喧嘩しても仲直りの仕方がわからない、勉強がうまくいかなくてもどうして**

いいかわからない。でも、それをどう親に言っているのかもわからない状態です。

○ そんなときのサポートの仕方は

勉強もそうですが、子どもの「わからない」は「何がわからないかすらわからない」という場合がほとんどです。ですから「**仲直りしなさい**」「**頑張りなさい**」や「わからないところがあったら言ってごらん」といった抽象的な助言や一方的なアドバイスは役に立ちません。

<例> 友だちと喧嘩して悩んでいるとき

「お母さんが**あなただったら**、明日の朝、学校で**こう言う**かな」

<例> 勉強でつまずいているとき

「**ここでつまずいているんじゃない?**」「**ここのやり方**を間違ってるのかも?」

- ・ 具体的に、親身になって**解決策・解決のことばや接し方、具体的な内容を一緒に考える**
- ・ **悩みや解決の糸口、つまずきの原因まで一緒に探してみる**

メタ認知ができるようになってくると、子どもでも「**自分のダメなところ**」「**できない自分**」に気づくので、誰でも**劣等感**が出てきます。それも葛藤が増える一因です。そこで**自尊心が低くならないようにするために、小さな成功体験・克服体験**が大切です。親として**加点法の見方**が必要です。

でも、**失敗がダメ**というわけではありません。子どもが失敗したら「それは悔しかったね」「辛かったね」と**共感した上で**、次に「自分で」成功体験ができるように**さりげなくサポート**してみてください。



いつまでも親にやってもらって成功しているのは成長にはつながりません。とはいえ放っておけば、いつまでも失敗を繰り返したり、やる気がなくなって先に進めなくなったりします。

今の本人の力がどの程度で、どのくらいの目標で頑張ればうまくいくか、親が子どもの様子を**しっかり見取り、一緒に考えて、必要に応じて具体的なアドバイス**をしてあげられるといいですね。真剣な眼差しと態度で!

